二宮佳景編
推理試験
1959年4月25日初版
1959年6月5日五版
定價220圓

編者 二宮佳景
発行者 伊藤尚志
印刷者 永久保新蔵
発行所 荒地出版社
千代田区神田三崎町2の9
振替・東京144861番
電話・九段(33)7694番

千代田印刷・鈴木製本

二宮佳景編

推理試験

——あなたの推理力をテストする80題——

荒地出版社

目

次

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

問題篇

1 将棋の相手 11
2 二人のディレック 15
3 根掘り博士 18
4 奇妙な手がかり 25
5 塵よけ眼鏡 30
6 白葡萄酒 32
7 白い手 34
8 愛の告白 36
9 にせ紙幣 38
10 ダニューブ河のさざなみ 39
11 電話の声 40
12 産婦人科医はだれに殺されたか 42
13 女の宿命 44
14 きこえない音 47
15 ささいな手ぬかり 51
16 宝石商殺害事件 53
17 銀の燭台 57
18 磁石と拳銃 61
19 最後の決め手 63
20 証言の問題 65

21 ジョーの手腕 66
22 謎の通信 67
23 ボルドーインの脆計 69
24 葉巻の灰 70
25 幻の強盗団 73
26 目撃者は語る 75
27 真夏の惨劇 76
28 すなおな男 77
29 死者は語る 79
30 二分間 80
31 義歯を盗む 82
32 とぎれた声 83
33 シャーマンの金庫 85
34 看護婦長の死 87
35 切り抜き 89
36 若き学者の悲劇的な死 91
37 即席探偵 93
38 煽風機 94
39 唖のジョン 96
40 時間のよみ方 98
41 自殺か他殺か 99
42 盗んだものはだれ 101

43 死後懶断 102
44 狂言強盗 103
45 箱の謎 105
46 血染めのタオル 106
47 小舟のなかの死 107
48 真珠の首飾り紛失事件 109
49 決定的な証拠 111
50 どちらが犯人か 112
51 週刊新聞のなぞ 114
52 盲人の感覚 116
53 おりこうすぎた 117
54 先妻殺害事件 119
55 ヨット乗りのアリバイ 120
56 脅迫状 122
57 運命の西瓜事件 123
58 消えた指輪 125
59 ケリー警部の一番手柄 126
60 フォード教授の厄日 127
61 列車内の殺人 129
62 埋蔵金 131
63 十三万ドル強奪 132
64 訊問 133

65 故障 134
66 はずれた狙い 136
67 偶然の手がかり 137
68 姿なきにせ札造り 139
69 棚の薬びん 140
70 金貸し射殺事件 142
71 毒チョコレート事件 143
72 簽をつつく 146
73 時の氏神 148
74 死体は語る 149
75 劇場主の弟 150
76 五千ドル 152
77 スキッパの手形 154
78 不完全なる完全犯罪 155
79 念には念を 157
80 名案 158
〈解答篇〉 161

問題篇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

1　将棋の相手

サントスが、休暇を貰つて、トーンデル村の貸別荘に避寒としやれこんで、魚釣りや音楽、将棋に夢中になつていたとき、コンホート警部が、休暇で、ぶらりと遊びにやつてきた。毎日魚釣りにこつていたのだが、ある日の午後、興奮してあわただしく帰つてきた。

「いやはや、おれが一年一度の休暇で思う存分釣ろうと思うと、きつとだれかが殺されやがる。警視庁では、現場の近くに滞在しているのをもつけの幸いにして、おれに捜査を担任しろと命令しやがる」

サントスは折からピアノにかじりついていたが、弾く手も休めずにうなずいて、

「まつたく運がいいじやないか――ところでだれが殺されたんだ？」

「なあに完全に殺されてはいないんだ。つまらん未遂事件さ。やられたのはロバートソン博士、時は昨夜、場所はクレープハムの病院だ。胸部の貫通銃創で、肺を完全に射ちぬかれてるんだが、不思議とまだ生きている。そりやあ、もちろん虫の息だろうがね」

「まあ、なんとかうまくやるんだね。その程度なら割に簡単だからね。すくなくともこのコンチェルトよりは簡単だろう」楽譜に額をくつつけんばかりにして、

「チェッ」舌打ちして、「こんなテンポはわしだつて出せやしない」

警部はぼかんとして相手をみつめていたが、やがて思い出したように、

「でも、ぼくといつしよにきてくれるだろうな？」

「どこへ？」

「現場さ」

「どうしてわしが行かねばならん？　ある男が射殺された。きみが加害者の捜査を命じられた。――きみも知つてのとおり、わしにとつて興味のあるのは、犯罪を前もつて予知し、それがおこるのを防止することにあるんだよ。犯人の尻なんかおつかけるのは真つぴら」

「だがな、サントス。この事件はちよつと変つているんだ。第一、クレープハム村は平和な村で、数年来一件も

犯罪はおこらなかつたんだ。それに、きみの興味をそそるような特別製の材料も揃つてるんだよ。というのは、ロバートソン博士は将棋をさしている最中にうたれたんだ。かれの倒れていたそばには、将棋盤がおいてあつて、駒もちやんとならんでいたんだよ」

「将棋をやつていた？」

将棋好きのサントスはひと膝のり出した。

「そうさ。ききすてならんだろう」警部はしめた、と言わんばかりにニヤリとして、「盤上、はげしい一戦をまじえていたらしい」

「ふーん、将棋をやつていたのか？　とすると、解決はいつそう容易になるわけだな。クレープハム村あたりで将棋をやるものは、そう沢山はいないだろうからね」

「その通り、博士は相当に強くて、日頃から田舎初段だなんて言いふらしていたからな。そのために相手は二、三人に限られていたということだ。けれど、その二、三人の相手は昨夜は、思い思いの場所にいて完全なアリバイをもつているんだがね」

サントスはちよつと考えていたが、急に興味を顔のうえにあらわして言つた。

「じや、でかけよう」

三十分ばかりの後、車は現場に着いた。門には、クレープハム病院という看板がかかつている。

立番していた巡査が、さつそく犯行のあつた部屋に案内した。床は赤いタイル張り、一方の壁は書棚になつていて、書物がぎつしりつまつている。中央に大きなテーブルがひとつ、それから庭に面した窓際に小さなのがひとつ、このうえに将棋盤がのせてある。

「これが食堂兼居間でして――ロバーソン博士の倒れているのをみつけたのは、掃除婦のテピングで、右手の拳のなかには駒を一個、しつかりと摑んでいたんです」

「つまり駒をうちおろそうとしたとたんにやられたわけだな」

警部は言いすてて、窓際へ近づいた。ガラス戸が細目にあいている。

「この窓はいつあけたんだ？」

「昨夜からあいていたのです。犯人はここから射つたのにちがいありません」

「玄関のドアは？」

原书缺页

原书缺页

「よし、なんとかしよう。ぼくは犯罪を予防するだけでなく、まちがつた裁判を予防することも好きなんだ。さつそくこれから遠出をする。が、明日中には帰つてくるから——」

サントスは、その日の夕方、帰つてくると病院のウィルコックス博士をたずねた。

ウィルコックス博士は、サントスの調査にすつかり観念して、ロバートソン博士殺害のすべてを自白した。

さて、サントスは、フェルトンが、ロバートソン博士を殺害したという自白をきいたとき、その自白をどのような根拠から嘘であると見破つたのか？

2 二人のディレック

アイダベル・ラッシャー未亡人は、思いあまつて女流探偵作家のスーザン・デアーを招いた。

つまり四歳の時に、保姆といつしよに行方不明になつた子供のディレックが、二十年ぶりにあらわれたのはうれしいが、ディレックとなのる青年が、同時に二人あらわれたのである。なにしろ三千万ドルという遺産の問題もひかえているので、まつたく困つたことだが、なんとか見分けることはできないか、というのである。

「ディレックは金髪で眼は灰色でしたが、二人ともやはり金髪で灰色の眼をしております。それに保姆のことも、玩具のこともハッキリ同じようにおぼえているのでございます。血液型は二人ともわたくしと同型なのです」

スーザンは、二人に会うまえに、ディレックの幼い頃の品々をみせてもらつた。それらは写真だとか、玩具だとか、幼稚園の通信簿などであつた。これらの品々はま

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook